



なんやかんやと明け暮れた一年も、もう残りはわずかとなってしまった。何をしてもなく、安穩と過ぎ去っていく日々、これで良いのかと苦悶する。

私もいつしか70歳に手が届く年齢となった。人生もいよいよ晩年へとさしかかる。身の整理もしておかなければと気持ちだけは焦るのだが、なかなか積極的にはそんな気持ちにはなれるものではない。

「我や先、人や先、今日とも知らず、明日とも知らず…」、が身に沁みしていないからであろうか。やはりどこまでも「人や先、人や先」なのである。

ある人は既に遺言書が書いてあると言われた。少々驚きもしたが、その必然性はよく理解できる気がした。内容は、いわゆる資産的な相続ではなく、己の人生からにじみ出た、いわば精神的結晶ともいえる人生観をしたためたもののように思えた。

私たちが気にかかるのは、どうしても資産的なものばかりである。しかし子や孫への相続はそれだけではないことを、この方の遺言書から改めて思い知らされてきたように思える。

言葉を通しての、また生きる姿勢を通しての心の相続も、愛する者たちへの最期に送ることのできる優しさではないだろうか。

はたして私には何ができるのだろうか。今、私自身に突き付けられた一大事である。

## 心の原風景へのあり方

中町 MN

私は、よく長良川の堤防を散策します。そこから眺める四季折々の風景は天下第一品です。清流長良川の悠然とした流れを見てみると、昔、古文の時間で習った「万丈記」鴨長明の一文が思い出されます。

「ゆへ川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし。人と栖じ、またかくのうたかた」  
諸行無常の風景が心に浮かんでいきます。

人の世は、いつの時代でも同じような仕組みで動いていて、人間という構成要素だけが次々と変わっていく。実際、私たちの人生もそのようなものかも。わずかの間、この世に仮住まいをしていくだけに過ぎない。一人の人生も「繋ぎ」のようなものかもしれない。

別の花の比喩で言えば、散る桜、残る桜も「散る桜」のようにこの世にとどまる時間の短いのはあつても、無常であることには変わりはないのです。

しかし、無常とは、静かな諦念としてとらえるのではなく、例えば災害のようにある種の安定を崩し、当座のバランスは失っても、そこで一歩を踏み出す積極的な行動力のことでもあり、無常を感じることが一歩を踏み出す積極的に生きて行く力にもなるのではないだろうか。

繋ぎのような人生かもしれないが、生きていくのではなく、生きて在ることへの感謝し、常に一歩前へ踏み出すことができるような心でありたい。

## 報恩講

十一月十三日(日)午前午後

お斎あります。



真宗(浄土真宗)の宗祖

午前 九時半・誦経 十時半 法話  
午後 十三時・誦経 十四時 法話  
十五時・門徒總會

法話 教順寺住職 KS師

年回(法事)を受付で確かめてくださるよう!

ともに今を生きる同朋としての喜びを、報恩講をご縁にいただきたいものです。多くの方のご参詣をお待ちいたしております。

# 数珠を自分で繫いでみませんか？

愛着のもてるお気に入りの一本に仕立ててみませんか？



数珠玉の数も足りなかったのですが、似たものを集めて作り直しました。

数珠が切れることはよくありますが、そんな時どうしていますか？

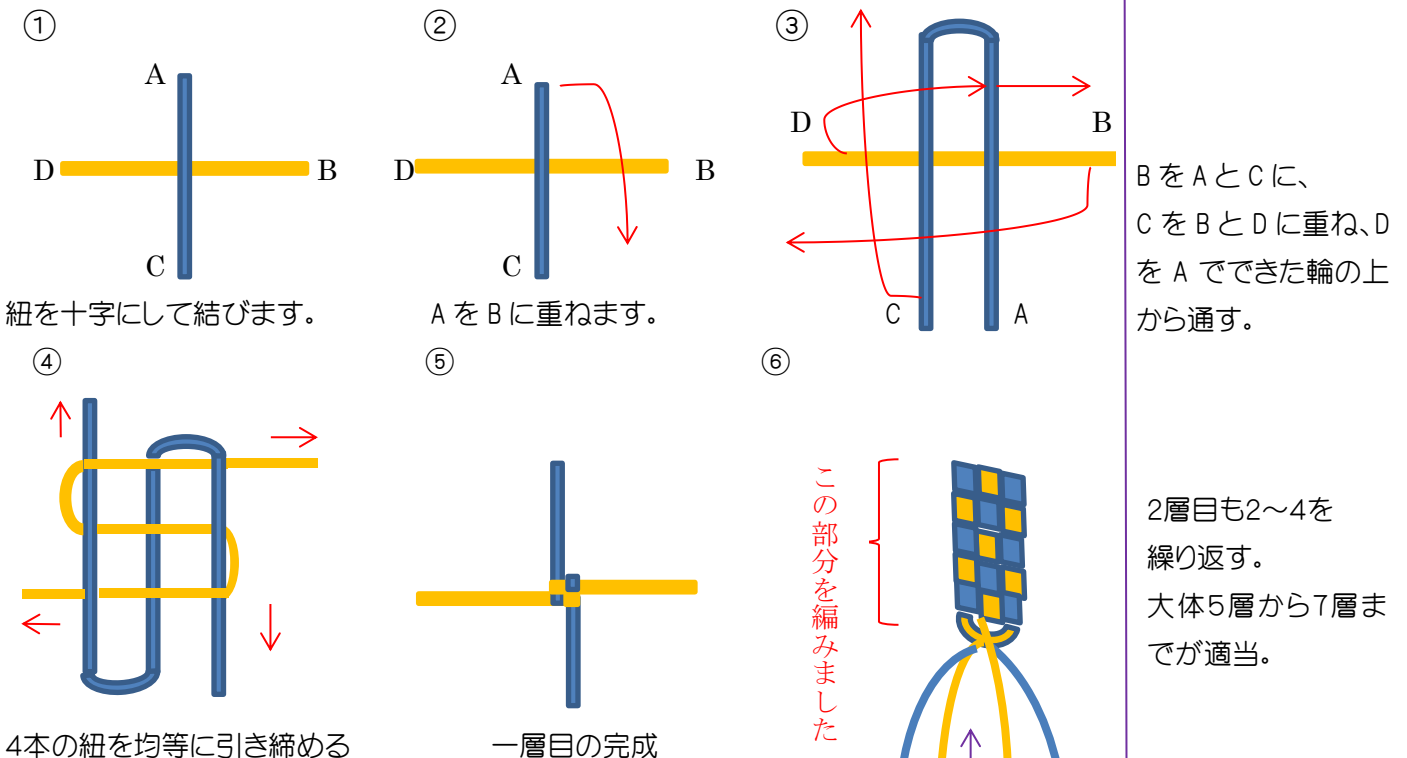
ほとんどの場合は机の引き出しに入れて、放りっぱなしにしていませんか？

普通の略念珠ならば紐さえ手に入れれば、容易に直すことができます。

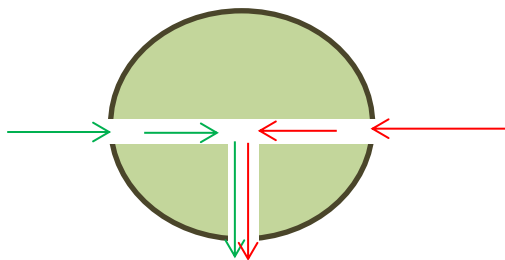
紐は仏壇屋さんに売っています。(1メートル300円程だと思えます)これで2本は直すことができますと思えます。(繫いでもらうと種類にもよりますが1,500円から3,000円はかかるかもしれません。)

ただ、親玉に糸を通すのがちよいと面倒なのと、あとは房の作り方をおぼえれば、意外に簡単にできるものです。ぜひ挑戦してみてください。

下の図は「丸四つだたみ」という編み方です。この図は数珠玉を下にぶら下げて房になる部分を上にしています。



親玉通しには一番てこずるかもしれません。糸の先端をカッターナイフの腹を使ってか1、2センチほど尖るように削って、その部分を水につけて固くするか、火であぶって固く、細くするとよい。



2本がうまく通った段階で、一本の紐を2本の紐と交差させ中央で縛り、4本の紐にします。

そして上図のように編んでいくのです。

一度やってみてください。できない時は光受寺住職特製の道具があります。こっそりお貸しします。



**同朋会** 本年最後)  
 第二土曜 十四日(七時より)  
 1. お勤め  
 2. 若院法話  
 3. お数珠づくり実習  
**お数珠づくり「お気軽にご参加ください。紐は用意いたしておりますので、切れたお数珠、または切れかけのお数珠をご持参ください。寺でも用意しております。腕輪念珠も可。**